

N1 第 18 课 心里的输贏多在 51 比 49 (课文)

あるとき、無理に連れて来られた高校生で、椅子を後ろに向け、私に背を向けて坐った子が居た。このようなときは、われわれはむしろやりやすい子が来たと思う。こんな子は会うや否や、お前なんかに話をするものか」と対話を開始してくれている。そこでそれに応じて、こちらも「これはこれは、僕とは話す気が全然ないらしいね」などと言うと、振り向いて、「当たり前やないか。こんなことしゃがって、うちの親父はけしからん……」という具合に、ちゃんと対話が弾んでゆくのである。こんなときに私が落ち着いていられるのは、心のなかのことは、だいたい 51 対 49 くらいのところで勝負がついていることが多いと思っているからである。

(『河合隼雄《心の処方箋》』新潮版による)

曾经有一位被强迫带来的高中生，把椅子冲着后面背对着我坐着。这时候我们就会想：“没准儿来了一个不棘手的孩子”。这样的孩子一见面就会这样开始说：“我才不会跟你说什么呢！”所以按照这点，我们就会说：“哎呀，好像一点儿都没有跟我说话的意思啊”，然后他转身说：“当然了。做这种事，我老爸真是不像话……”就这样，会谈得越发起劲儿。这种时候我能够保持平静的原因是：“心理较量一般是在 51 比 49 的地方已经分出了胜负。”